



所在地：千葉県市川市新田  
施主：加藤武志  
設計：KATO建築設計室  
施工：(株)第一工務店

## 高齢者障害者に配慮した住宅 市川の家

二世帯住宅の場合、親世帯の居住部分と子供世帯の部分とを一つの建物の中でどの様に分け、つなぐかが課題であろう。当住宅は、375m<sup>2</sup>の敷地面積を活かして、親世帯のゾーンと子供世帯のそれを横並びに配置し、親部分は平家に子供部分は二階建てにつくられている。玄関や台所、トイレ、風呂場等もそれぞれ別に設けてあり、屋根は連続しているというものの、日常生活の独立性は高い。だが、かといって遮断されているのではなく、境目である中央部分を凹ませることで、そこに広い濡れ縁を設けて往来を容易にし、親世帯の居間の窓を子供世帯の居間や台所から斜め横に見ることが出来、その気配をなげなく感じ取れるようになっている。

親世帯のための建築時における配慮は、居間を洋間に

したことで、和室以外の段差をなくしたこと、敷地内に歩行できる小道を巡らせたことである。畳敷の和室があり、風呂場やトイレには手摺以外の特別の配慮はない。だが、必要が生じた時には、風呂場を広くしたり、襖をはずして介護しやすいように二つの部屋を一つにするとか、壁を取り除いてドアにし直接の往来を可能にするというように、状況に応じて変えていけるように予め考えられている。

設計者自身の家族の住まいであることもあり、そこで暮らすものの立場から二世帯同居をどのような住まいの形にするか、十分に考え抜かれた作品であるといえよう。機能的な個々の設備にこだわっていない点を評価したい。

(川上昌子 委員)

